

## 駿河湾の深海魚（18）

### サクラエビと混獲のハダカイワシ類

久保田 正・佐藤 武

サクラエビ (*Sergia lucens*) は、駿河湾における沿岸漁業の重要な漁獲物の一つです。近年、漁獲量が極端に少なくなって漁業者、加工業者、販売業者などが窮地に陥っています。この漁業は、夏季の産卵期を除いて春漁（3～6月）と秋漁（9～12月）の年2回の漁が行われています。2010～2017年には毎年約1,000トンの水揚げがありましたが、その後不漁が続き休漁や操業規制が行われています。

このサクラエビ漁で獲れるサクラエビと同じような行動をしていると思われる深海性の生物が、エビ網に混獲されます。特に目立つ魚類群としてハダカイワシ類を挙げることが出来ます。当湾のサクラエビを捕食する重要な魚類としてハダカイワシ類を対象としてその種類や実態を以前から調べてきましたのでその概略を紹介します。

本科魚類は、世界の海から35属220種以上が知られ、そのうち当湾から50種の生息記録があります。サクラエビと混獲された種類は、次の12種です（調査回数を増やす事によりこれら以外の種の出現の可能性あります）。

イワハダカ (*Benthoosema pterotum*)  
ナガハダカ (*Symbolophorus californiensis*)  
アラハダカ (*Myctophum asperum*)  
ウスハダカ (*M. orientale*)  
センハダカ (*Diaphus suborbitalis*)  
スイトウハダカ (*D. gigas*)  
ハダカイワシ (*D. watasei*)  
サガミハダカ (*D. chrysorhynchus*)  
ヒロハダカ (*D. garmani*)

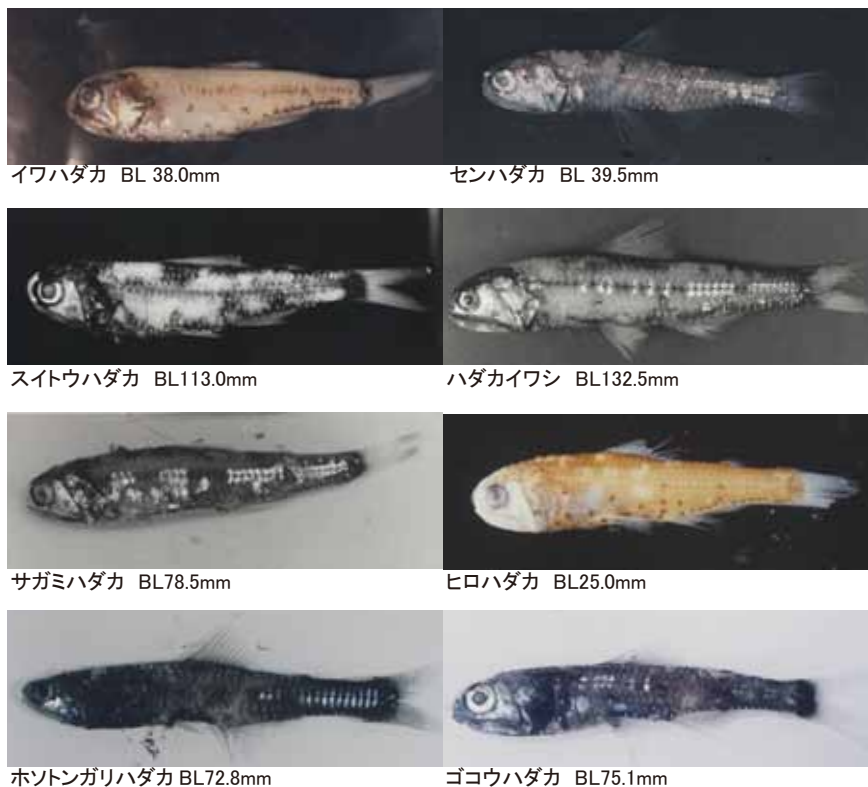


図1 サクラエビと混獲のハダカイワシ類（12種中の8種）

ホソトンガリハダカ (*Lampanyctus nobilis*)  
ゴコウハダカ (*Ceratoscopelus warmingii*)  
オオクチハダカ (*Notoscopelus japonicus*)

これらのうち、スイトウハダカ、ハダカイワシ、サガミハダカ、ホソトンガリハダカ、ゴコウハダカなどの大型種はいずれもサクラエビの捕食が目立っています。特に前3者は、サクラエビの体長モード（季節により異なる）よりも大きい個体を捕食し、捕食魚として最重要種です。また、ホソトンガリハダカは、捕獲されない体長13mm以下のサクラエビを捕食していたのは特異的です。さらにセンハダカ、イワハダカ、ヒロハダカなどは、浮遊生活しているサクラエビの幼生を捕食している可能性があります。海域によって大量に混獲される大型種のハダカイワシさらに中型種のセンハダカやイワハダカなどは、食材として利用されています。